

# 物流業界のDXについて ～物流事業者の挑戦～

株式会社ライナロジクス

代表取締役 朴 成浩

# DXの定義

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

（経済産業省「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）」Ver. 1.0）

**要はアナログでやってることを  
デジタルでパワーアップしよう！**

# 「デジタル化」よくある間違い

- アナログと同じことにやろうとする
- デジタルではアナログと同じことはできない
- デジタルはデジタルの良いところがある

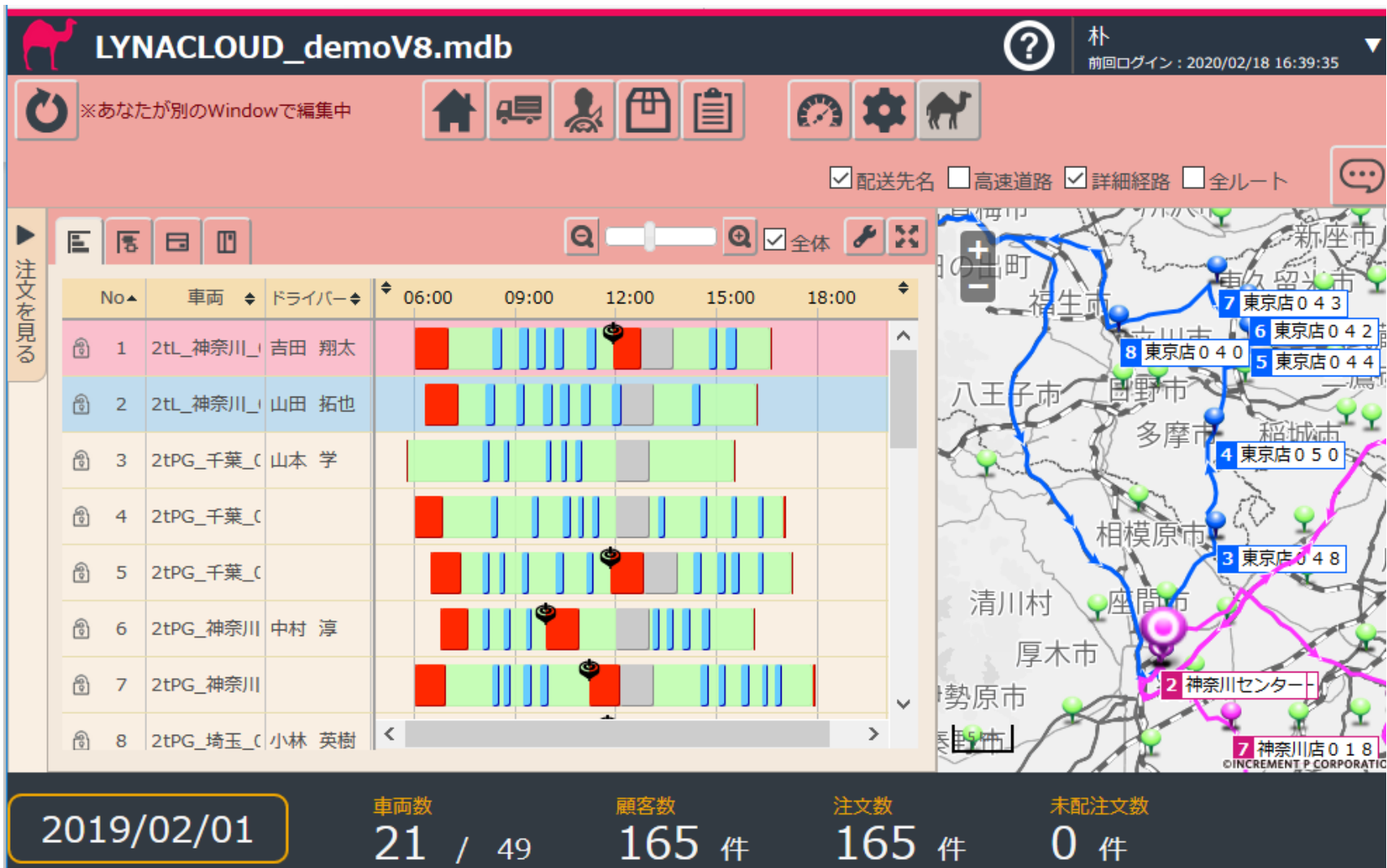
# なぜ今「DX」なのか

- コロナ、SDGs、ゼロエミッション
- 今までのやり方が通用しない
- 物流のDX
  - 運送業の基本的なフォーマットは30年以上、変わっていない

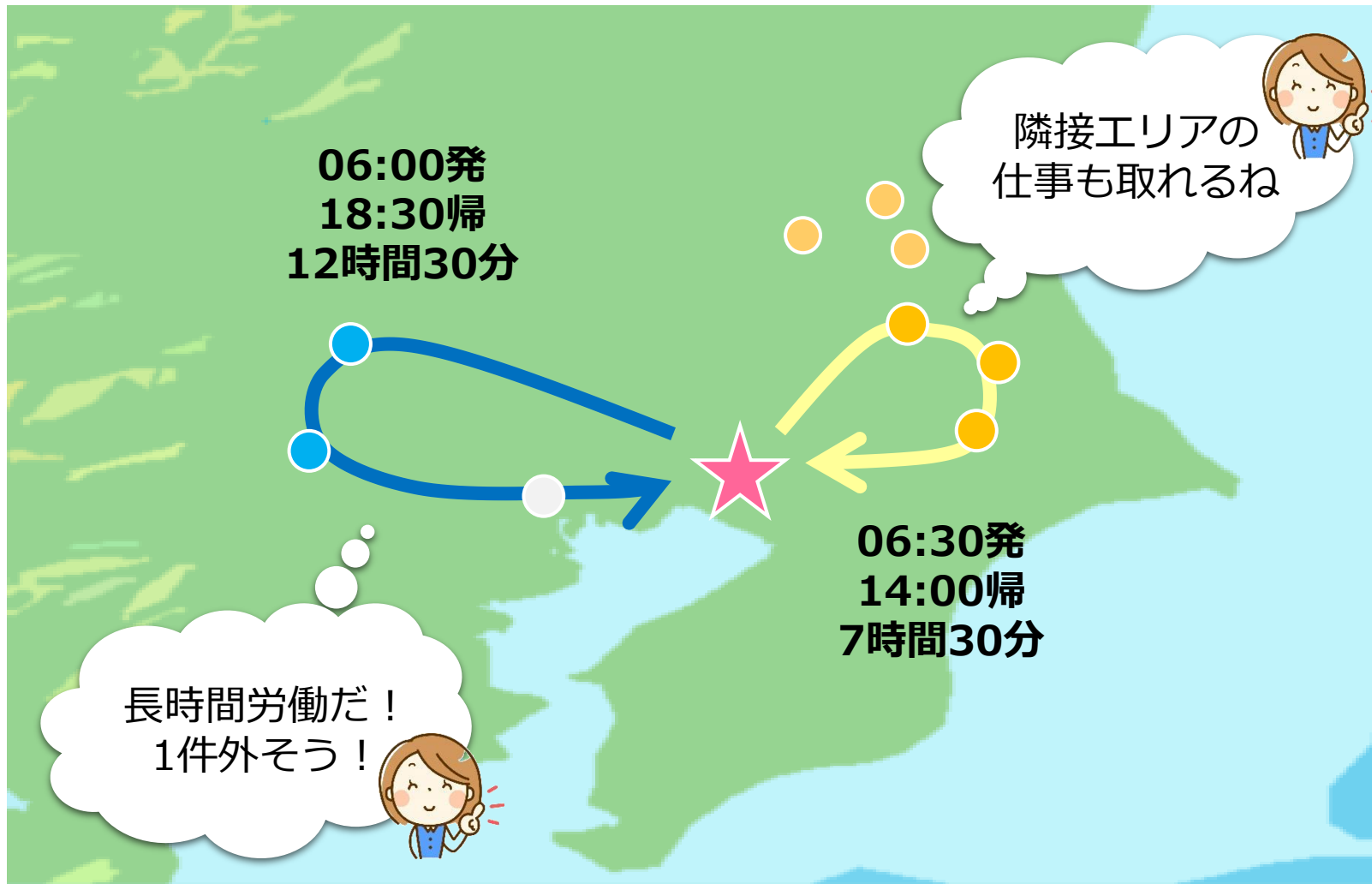
# ある運送事業者の例



# 「自動配車」で何が起こったか？

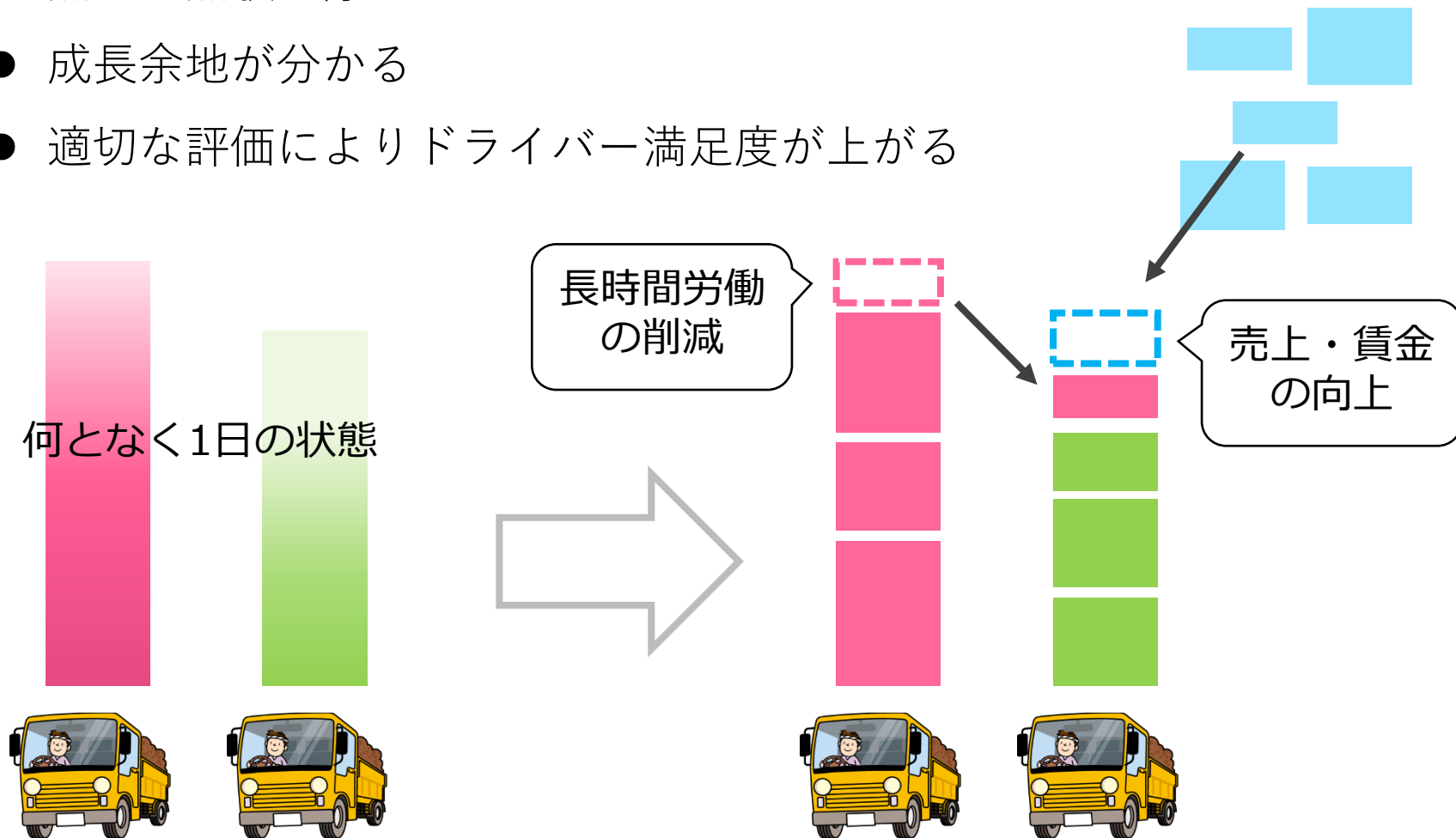


# 生産性向上は「明日」の見える化から



# 「見える」が「努力」と「工夫」を産む

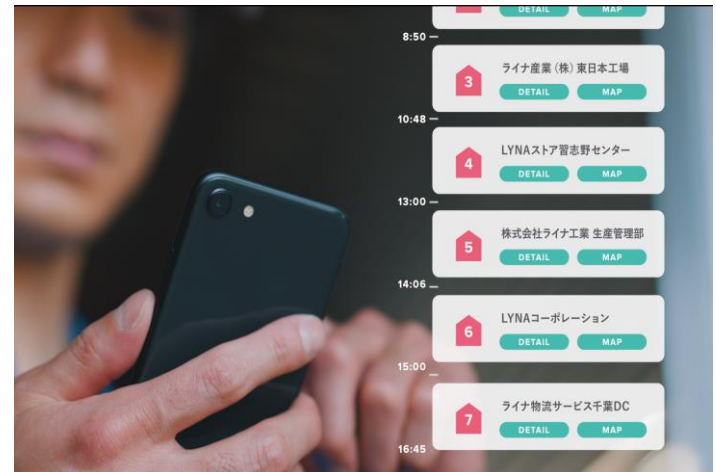
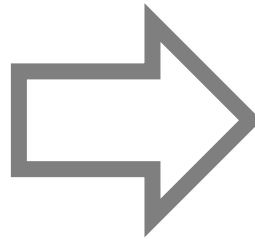
- 無理・無駄を浮かび上がらせる
- 成長余地が分かる
- 適切な評価によりドライバー満足度が上がる





# 物流DX はじめの一步は？

- 電話、FAXの受発注 → ネット、スマホ
- 紙ベースの情報の保管 → デジタル化、クラウド化
- 情報をリアルタイム、必要な人は誰でも（社内・社外）使える



# なぜDXが重要なのか？

- もしAmazonがDXされていなかったら・・・

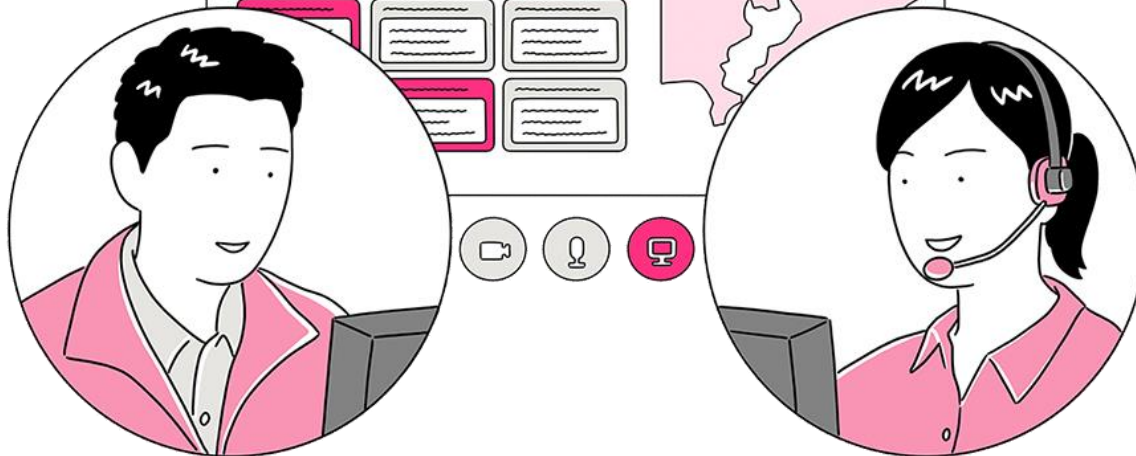


**DXされていないとお客様に提供できない価値がある**

# ピンチは新たなチャレンジを産む

- 荷主企業と協力して取り組むチャンス
- コロナでこんな「問い合わせ」が増えた

配車システムを家に持って帰りたい！



いつの時代も、時代のニーズ > 業界の慣習

# 今日から始めるDX

- デジタル化がお客様、社会にどのように役立つのか？を考える
- 今からスタートできる取り組み：

**もしあなたの会社がDXしたら  
何ができるか3つ考えてみる**

# まとめ

- 真の課題は「**低賃金・長時間労働**」、つまり「**生産性**」
- 生産性の向上は「**明日**」の見える化から
- 「見える化」の入口は**オーダーと明日の計画**
- 世間がDXに取り組み始めた**今が改革のチャンス**
- デジタルを活用し輸配送を**計画の段階から最適化**することは  
CO2削減をはじめとした環境・社会への貢献にもつながる

# A | 配車が物流業務を変える！

クラウドですぐ始められる、いつでもやめられる



自動配車クラウド

ライナ クラウド

検索

